

花泉町金沢で「太陽光発電所起工式」

市内最大のメガソーラーが2015年11月に完成

「一関市金沢太陽光発電所起工式」は12月11日、花泉町金沢の現地で行われ、関係者ら70人が工事の安全を祈願しました。完成予定は、2015年11月。180,000平方メートルに設置されるパネルは42,328枚で、年間発電量は一般家庭3,300世帯分に相当する11,473,362kWh。市内最大の発電所になります。リニューアブル・ジャパン(株)の眞邊勝仁社長は「市内で5カ所目になる発電所。雇用の確保にもなり、地域の財産にもなるはず。地域の皆さんと意見交換しながら、人と人をつなぐネットワークを築いていきたい」と発電所の完成に期待を込めていました。



「ILCと外国語にふれよう」をテーマに

波及効果で変わる一関の未来に期待

「ダイエット★ILC★MATSURI!」は12月13日、大東コミュニティセンターで開かれました。このイベントは、ILCの実現に向けた取り組み。子どもたちによる地域の情報発信事業「いのせき未来創造デザイン工房～ILC学び塾～」の一環として行われました。ILCポスターコンクールの表彰式や応募作品の展示、ILCのイメージイラストを手掛けるCGイラストレーターのRey.Horiさんの作品展示、障がい者福祉サービス事業所の室蓬館によるILCをモチーフとしたパンやロールカステラの販売、おはなし会「世界中、笑顔でつながりたい」など、多彩な内容でILCへの理解を深めました。



国際医療福祉専門学校一関校で救急救命技術選手権大会
全国の13校が救急処置の速さと正確さ競う

「第11回東日本学生救急救命技術選手権大会」は12月6日、室根町釘子の国際医療福祉専門学校一関校で開かれ、未来の救急救命士たちが技術を競い合いました。大会には、同校を含む13校がエントリー。東京都や長野県などから、各校の精鋭が集いました。競技は、1チーム5人で、救急現場を想定した4種目などで救急処置の速さと正確さを競います。同校2年の高橋広太さん(21)は「いつも訓練しているように、的確な処置ができました。同じ夢を追う人たちが一堂に会す貴重な機会。他校との交流も楽しみたい」と話してくれました。



手作りのグリーンカレー味わい、交流深める

旧千厩中・仮設住宅で「ともだちカレー」

連帯東北・西南が主催する「ともだちカレー」イベントは12月6日、旧千厩中の気仙沼市仮設住宅で行われ、千厩地域へ一時避難している人ら60人が、カレーを味わいながら参加者との交流を楽しみました。ルーから手作りしたグリーンカレーを、付け合わせのナンや搾りたてのミルクを使ったチャイと一緒に味わいました。同団体評議員のセイエド・タヘルさんは「ここでイベントを行うのは2回目。皆さんの笑顔が活動の原動力です」とにっこり。参加した菅野章枝さんは「おいしいカレーとタヘルさんたちの優しい気持ちに、身も心も温くなりました」とほほ笑みました。



迫力のプレーに熱い声援

V・プレミアリーグ女子一関大会

バレーボールの「V・プレミアリーグ女子一関大会」は、11月22日、狐禅寺の市総合体育館で開かれ、全日本選手らが繰り広げる迫力のプレーに熱い声援が送られました。第1試合は3連覇を目指す久光製薬スプリングスとトヨタ車体クインシーズ、第2試合はNECレッドロケッツ対デンソーエアリービーズの対戦。選手たちの高い打点から打たれるスパイクや粘り強いレシーブなどレベルの高いプレーに訪れた約2800人の観衆は、魅了されていました。スポーツ少年団の仲間と観戦した興田小6年の高橋冬聖君は「サーブやスパイクがとても速い」と目を輝かせていました。



みんなを笑顔にする人形との掛け合い

腹話術サークル「あのね」20周年記念公演

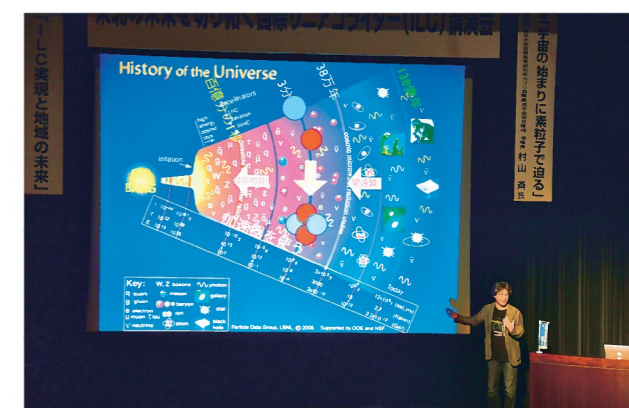
腹話術サークル「あのね」(藤野静枝代表、会員15人)の結成20周年記念公演は11月29日、大東町摺沢の中華レストラン「バンバン」で開かれました。「あのね」は大東町摺沢を拠点に活動。ユーモアあふれる昔話を相棒の人形と絶妙な掛け合いで披露すると、会場は大きな笑い声に包まれました。人形の「ケンちゃん」と出演した気仙沼市の小野寺久子さん(74)は「緊張でせりふを忘れてしまったが、腹話術はそれも笑いに変えられます。津波で多くのものを失いました。生きてるうちは笑顔でいたい」と話してくれました。



一関の未来を開く開発・研究の成果を發揮

一関高専がプロコン・ロボコンでW受賞

一関高専の学生らは11月21日、田代善久副市長に「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」(プロコン)と「全国高等専門学校ロボットコンテスト東北地区大会」(ロボコン)での受賞を報告しました。プロコンでは、課題部門「防災・減災対策と復興支援」で、敢闘賞と富士通企業賞を受賞。復興に関わる人のコミュニケーションやまちづくりの意見交換をサポートするアプリケーションが、高い評価を受けました。ロボコンでは、同校の2チームが特別賞を受賞。松枝匠部長(5年)は「チームが一丸になった1年間。受賞以上に、技術や知識など得られたものは大きい」と話してくれました。



宇宙を知ることで人の起源を知る

ILC実現の意義と重要性を熱弁

「東北の未来を切り拓く国際リニアコライダー(ILC)講演会」は11月22日、一関文化センターで開かれました。東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構の村山斉機構長が「宇宙の始まりに素粒子で迫る」と題して講演。ILCで行う研究の意義を説明し、ILCによってヒッグス粒子や、宇宙の8割以上を占める「暗黒物質」を解明することができるかと説明しました。講演を聞いた一関一高1年の佐藤教通くんは、「小学校の頃、図鑑で見た宇宙に興味を持った。将来は科学の分野で働きたい」と意欲を燃やしていました。